

謝 辞

本論文の作成にあたり、終始懇切丁寧な御指導および御校閲を賜りました高松 薫教授に深く感謝の意を表します。先生には、何事も作業の遅い私を根気よく指導していただきました。また、本研究以外にも、体育・スポーツに関する多くの事柄について、時に一杯やりながら、有意義なディスカッションがありました。そのことによって、体育科学における実践と研究の位置付けや在り方などについて、広く深く考えることができました。本当にありがとうございました。

そして、ご多忙のなか、本研究の副査を引き受けて下さった野村武男助教授、田中喜代次助教授、そして竹田一則講師をはじめ諸先生方から、さまざまな御指導、御助言を頂きました。特に、野村先生からは、トレーニング研究の考え方や論理の積み重ねの大切さなどについて、田中先生には、用語の定義や研究の意義と限界を明記することの大切さなどについて、的確で示唆に富むアドバイスを頂きました。そして、竹田先生には、専門外の内容にもかかわらず、本研究のアイデアに興味を持って頂くことができ、さらに貴重なご意見・ご質問を頂きました。ここに深く感謝いたしますとともに、頂いた御指導に対して十分に応えることのできなかつた点に関して、今後の自分の研究活動・実践活動に活かしていくことを誓います。

さらに、こころよく被検者を引き受けて下さった本学陸上競技部中長距離ブロックの選手の皆様、そして、走りながら、飲みながらとさまざまな機会に本研究に関して有意義なディスカッションをして下さった鍋倉賢治先生、中長距離走関係の大学院生、および高松研究室の皆様に対して、ここに改めて厚く御礼申し上げます。これらの経験を、自ら、また仲間たちとのランニング実践をとおして、そして、体育・スポーツに関する実践と研究の狭間で悩み、考え、活躍している高松研究室のスタイルを忘れずに、今後の自分の仕事に活かしていきたいと思えます。